

ドル/円相場のトレード戦略

【ドル/円 週足】



■中期展望

昨年 2018 年のドル/円相場は、当初想定していたように 2017 年と同様のレンジ相場が継続しました。

年間の値幅は 10 円を下回り過去最少、2017～2018 年の 2 年間を通して値幅は 14 円に満たず過去最少となり、市場のボラティリティから収益を得ようとするディーラーにとっては極めて厳しい環境となりました。

その大きな要因としては、絶好調だった米国の経済状況にもかかわらず、年初に米国の政策への不透明感からドルが下落したこと、そして年末には米金利のフラットカーブ化やそれに伴う米国株式の大幅下落、米中貿易摩擦の激化などのリスク要因が相次いだことでドルの上値が抑えられたことが挙げられるでしょう。

米国経済が強調であり利上げ予測が続くためにドルロング・ポジションが蓄積される中でもドルが大きく上昇しないという現象は、ドル高派にとって想定しにくい状況であったと思われます。

そのため、本年年明けの 1 月 3 日に 108 円を割り込むと損切りのドル売りを巻き込みながら、ドル短期に 4 円以上の下落という動きが引き起こされました。

その後、1 月の米 FOMC では声明文から追加利上げのバイアスが削除され利上げ継続という政策スタンスが大きく変わったことによりドルは持ち直しました。

また、米経済指標は好調を維持するものも多く、良好なファンダメンタルズのなか金利が低位安定

ドル/円相場のトレード戦略

するという適温相場が再び始まったとの期待が強まっています。

ただし、米中通商交渉が難航し、米国が対中関税引き上げを実施、中国側も報復措置に出る可能性が高いことがドルの上値を抑える動きが続きそうです。

米中貿易摩擦の深刻化を考えた場合、やや下値リスクが高いと思われ、当面は107円から112円程度のレンジが想定されます。

■短期展望

先週は108円前半でスタートした後、トランプ大統領が表明した対メキシコ関税引き上げの方針を嫌気して軟調な動きが続きました。また、米10年債利回りが17年9月以来となる2.05%台まで急低下したことを受け、一段とドル売りが強まり4日には107円82銭の安値をつけました。しかし、パウエル米FRB議長による「景気拡大を維持するために適切な行動をとる」との発言が利下げ観測を強め、米国株は反発、ドルも値を戻す動きで108円台を回復して週を越えています。

今週は、先週末のトランプ大統領の対メキシコ関税引き上げの無期限先送りの発表を受け、ドルが強含んでスタートしており、米株急落リスクの後退によるリスクオン相場が継続するとの思惑から、ドルが底堅い動きとなりそうです。

ただし、110円を突破していくには、米中貿易交渉の進展や米景気回復の顕著なシグナルなどが必要で、今週はまだ上値も限定的と思われれます。

したがって、今週のレンジは108円～109円半ばを想定します。